日本女医会誌

復刊第 197 号
2009 年 1 月 25 日発行
題字　吉岡彌生

巻頭言　私には夢がある
――もはやマイノリティではない。平等で公平な社会を――

会長　小田泰子

新年明けましておめでとうございます。

昨年、日本女医会は多くの新しい事業を展開しました。ざっと述べますと国内活動としましては「10代の性の健康支援ネットワーク作り事業」（通称ゆいネット）「在宅高齢者のための栄養管理事業」「女性医師支援」「子育て支援」など。国外活動としましてはオーストラリアで開かれた国際女医会西太平洋地域会議に参加、国連NGO国内婦人委員会、10団体の1つとして本年度の担当団体となって取り組んだ「日本・アラブ女性交流」に参加等があります。どの活動も参加された方に多くの経験と感動が与えられ、今後の生き方の示唆を得たと信じます。それらが今後の日本女医会活動に還元されることを期待しています。

また、昨年の総会で「日本女医会吉岡弥生賞」の財源不足をご報告し、会員にご寄付をお願い申し上げましたところ、思いがけず多くの会員から多額の温かいご寄付を頂き深く感謝申し上げます。会計から詳細をご報告しておりますが、これで吉岡弥生賞は安泰となりました。また、使途を本部に任せていただいたご寄付の一部は、会員増強のために学生会員、前期研修医の年会費を無料にし、HPの充実を図ることなどに使わせていただきたいと考えています。会員のご厚意をムダにしないように気を引き締めて活用させていただきます。

さらに、日本女医会は「若い女性の健康を守るために子宮頸がん検診とHPVワクチンの啓発・普及活動に取り組む」事を宣言しました。このことにつきましては、すでに多くの分野の人を巻き込み全国的な運動へと展開しつつあります。さらに、日本女医会は賛助会員を募集し日本女医会の認知度を高めると共に、活動範囲を広げて参ります。

この1月末から10日間ほど、先に申しました日本・アラブ女性交流の一環として日本女医会が担当してヨルダン、エジプト、シリアからの女性代表を受け入れる事になっています。日程などの詳細は前号の日本女医会誌196号13ページに掲載してある通りですが、

日本女医会は若い女性の健康を守るために子宮頸がん検診と HPV ワクチンの啓発・普及活動を行います。

日本女医会誌（第197号）もくじ

〈巻頭言〉私には夢がある ……小田泰子（1）
年頭にあたって ……（2）
守内順子、木村あさの、斉藤恵子、渡部光子、延藤文子、保田正子、窪　斐子、樗木晶子、横須賀慶子、石井伸子
第 54 回（社）日本女医会定時総会ご案内 ……（6）
委員会ほか各報告
子育て支援委員会 ……堀本江美、斉藤恵子（7）
長寿社会福祉委員会 ……山本纊子（8）
第 9 回 国際女医会西太平洋地域会議 ……内潟安子、大矢明子、吉馴茂子（8）
祝！橋本葉子前会長　叙勲 ……（11）
中東アラブ訪問記 ……津田喬子（11）
第 2 回軽井沢セミナー報告と今後の予定 ……小関温子（14）
市民公開講座開催報告「俳句で脳をいきいきと」……斉藤恵子（15）
留学記 ……吉田穂波（15）
連　載
支部だより「京都支部のつどい」 ……石川知子（16）
私の大学「岐阜大学医学部」 ……山本眞由美（17）
新刊書紹介『糖尿病と妊娠の医学』 ……大森安恵（18）
会員動静 ……（18）
講　演「現代の忘れもの」 ……渡辺和子（20）
寄付者一覧 ……（21）
理事会議事録 ……（22）
各賞および学術研究助成のご案内 ……（26）
編集後記 ……（26）

このような国際交流の機会に特に若い会員の参加を希望します。国内活動だけでは得難い新しい経験をし新しい発想と感動が得られます。

最後になりましたが、前日本女医会会長の橋本葉子先生がこの秋の叙勲で「瑞宝重光章」を受けられました。橋本葉子先生のこれまでの幅広いご活躍が評価された結果ですが、これは最高位の「瑞宝大綬章」に継ぐ高位の章です。本当に喜ばしいことです。今年5月17日に大阪で開催される第54回日本女医会総会で改めて会員にご披露をし、皆でお祝いを申し上げたいと考えています。あわせて日本女医会大阪総会へのご出席をお願い申し上げます。

女性医師が増加し、ここ9年間、医師国家試験合格者の30%を超えています。30%を超せばもうマイノリティではありません。マイノリティでないということは社会的に無視される存在でなくなったと同時に責任を負うべき存在になった事を意味します。女性が子育てをしながら仕事を続け、且つキャリアを積む際にある困難は決して軽視できるものではありません。しかし、人間、流した汗と涙だけは報われると信じています。いろいろな分野で男女平等が言われていますが、平等で且つ公平な社会の実現に日本女医会は貢献して参ります。

年頭にあたって

北海道支部　**守内順子**

あけましておめでとうございます。

世界経済恐慌の中、赤字、減産、ゼロ金利、リストラの文字が新聞紙面を覆い、テレビの話題を独占しています。

2009年はどんな年になるのでしょう？　不況により人の心がすさみ、社会も荒れていくのかと不安で一杯です。

日本女医会子育て支援委員会の「十代の性の健康」支援ネットワーク作り事業が全国４カ所で始まり、札幌もモデル地区の1つに選ばれました。社会を良くしていくためには、若者を守り育てていかなければなりません。従ってこの事業は大変重要な意味を持つと思いますので、札幌担当委員の堀本江美先生をサポートして行きたいと考えています。

昨年は４月に北海道大学の岸玲子教授の講演会『女性医師・研究者としてのキャリア形成―私の経験から』を、また10月には『女性医師の今―女性医師はいかに生きているか？』というタイトルでの講演会と、学生さん達や若手の女医さんとの懇談会を開催しました。参加された皆様から「キャリア形成やライフワーク・バランスに関して具体的にイメージが湧いてきた！」と喜んでいただき大変嬉しく思いました。

1月10日には、今度は札幌医科大学の学生さん主催で行います。このような会を通じて学生さんや若い女医さん達が、医師として仕事を継続していくモチベーションを強く持って下さることを望んでいます。

今年も私達は＜女性医師のサポーター軍団＞としてがんばりたいと思います。

年頭所感

青森支部　**木村あさの**

新年おめでとうございます。このたび青森県から、ユング心理学分析家石岡弘子先生を日本女医会吉岡弥生賞候補者に推薦致しました。お母様の舘田恭子先生に次ぐ二代目会員です。母の背中を見て娘が医師になりたいと思うことは素晴らしいことです。

青森県医師会では弘前大学医学部に冠講座として医師会枠を持ち、女性理事の村岡真理先生も講義をしています。こちらも前田慶子前青森支部長を継いでの二代目講師です。学生の中から将来の医師会、女医会を背負う医師団が形成されることも新しい希望です。

このような嬉しいニュースを寄せられることは平成21年の年頭に当たり大いなる喜びです。今年も宜しくお願い申し上げます。

年頭に当たって

岩手支部長　**斉藤恵子**

あけましておめでとうございます。今年も宜しくお願い申し上げます。

岩手県支部は会員の増減はありませんが、小人数ながら何か事を起こそうとすれば一致団結、協力して何とか出来る力があると昨年度の活動を通して感じております。

昨年は小田会長をはじめとして本部の諸先生のご指導による「痰の吸引」の講習会、市民一般公開の

俳人黒田杏子先生による講演会、そして行政、司法、教育分野、警察、女性センター等を横断的に巻き込んだ「健全な性の育成」に関する懇談会と事業は全て県民にとって役に立ち、かつ喜んでもらえることであったと思います。これらの経験を生かして新年は又新たな目標に向け、活動を展開する所存です。医師不足は前項の例に漏れませんし、女性医師の環境が特に改善されたというわけでもありませんが、県立中央病院などに女性医師のための保育所の設置計画、女性医師専用の当直室のための改築などもなされ、又男性医師の環境改善に向けて議論が活発になってきました。

岩手県には岩手県医師会女性医部、岩手医科大学女性医部会があり又岩手県歯科医師会女性部会も昨年出来ました。共通する活動目標が多々あり、今まで協調して活動してきましたが、育児支援はその中でも最も大きな課題です。情報交換をしながら効果的な利用に向けていく所存です。産婦人科、外科分野を専攻する女性医師が増えてきており継続して活躍できるサポート体制作りは必須です。

私は「岩手県医療審議会委員」、「岩手県総合計画審議会委員」や「人に優しい町づくり委員会委員」やDVシェルターの相談にも関わっており、女性医師の立場から意見を述べたり、それらの各分野の委員さんたちと情報交換して女性医師の活躍の場を広げていけるのではないかと思っております。

又、今年は会員の増員や支部の組織づくりにも力を入れねばと思っております。

よろしくご指導の程お願いいたします。

年頭所感

宮城支部　**渡部光子**

皆さん、あけましておめでとうございます。

新年に新しい気持ちで出発したいところですが、とても明るい世相とはいえない昨今です。

経済もたいへんな不況に陥り、いわゆる「派遣切り」など失業者が巷に溢れ始めています。

周知の「医療崩壊」も足元に押し寄せています。うつ病が激増し、年間3万数千の自殺者が10年間続いています。宮城県も全国平均よりやや多いくらいの自殺者を出しています。

ここ2、3年を見ても、東京、神戸、愛媛での女医の過労自殺が目に付きます。一般には女性の自殺は男性よりだいぶ少なく、手段が不確実なため未遂が多いのですが、女医の場合は必ずそうは言えないようです。過労、孤独、職場でのハラスメント等が重なったときに危険が大きくなり、周囲には「確実な手段」が転がっています。最近は労災や賠償金が認められるケースも出ていますが、死んでしまっては仕方がありません。女医としての特性を考慮しながら、医療現場、そして医療状況全体の改善を望みたいものです。

年頭所感

岡山支部　**延藤文子**

明けましておめでとうございます。今年は丑年です。私も、何回目かの年女です。72年もの間、大病もせず、元気で生きてこられたことに、感謝しなければなりません。

縁起をかつぐ訳ではありませんが、今年の運勢によると、運気いまだ旺盛とはいえ、安定せず、波乱含み。昨年の調子で猛進すると、大きくつまずくので、現状維持と足元固めを優先させる心掛けが必要とのことです。いまさら新しいことを始める訳ではなく、無難に一年を過ごすことができたら良いなと思っています。

眼を世界に向けると、何十年に一度という経済恐慌とのことなので、安定した生活は無理かも知れませんね。医療面でも、次々と難問が山積みしています。どのように乗り切って行けば良いのでしょう。

世界の平和を願い、無事な一年を願ってやみません。

年頭所感

山口支部　**保田正子**

日本女医会会員の皆様、あけましておめでとうございます。今年も健やかに私たちの使命をふまえ、夫々の立場で働きたい――時には現場で、あるときには協力金であれ、他を思いやる社会的役割に関わって行くことが出来れば幸せなことだと思います。

一年ほど前、私たち山口県のNPO山口女性会議から10名(団長保田正子)が韓国第三の大邱(テグ)広域(グヮンヨク)市(人口250万人)を訪問。特にWMP(ウーマンメディパーク)女性専門病院（理事長女医申東鶴(シントンハ)医博79才）及び東鶴保育園（理事長申

東鶴）の見学及び大邸宅市内大学関係専門職の女性達と交流会を持ちました。それが縁で、今度はこの一月中旬にWMP申東鶴先生を含む大学関係教授連が来日、広島市の国際会議場で女性の地位、男女共同参画状況についてセミナーが開かれることになったのです。近くて遠かった国から近くて近い国に変わる年になりますように願って参加したいと思っています。

年頭所感

高知支部　窪　斐子

あけましておめでとうございます。

日本全国北から南の会員の皆様、完璧ではなくともそこそこお元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。高知は比較的暖かいお正月を迎えております。私はコツコツ田舎で耳鼻科を開業して30年になります。とりたてて変わらない日々を過ごしておりますが、日本女医会に出席すると若々しい先生方にお会い出来るのでとても励みになります。

世相は荒々しく人々の心もすさびがちな今日この頃ですが、日々是好日とあるがままに暮しております。今ひとたび暖かい目で周囲を見まわし、暖かい心を繋いでいくのも私の生き方と思い、和の心で残りの人生を過ごしていくつもりです。

どうかこれからもよろしくお導き下さいませ。

年の初めに

福岡支部　樗木晶子

新春のお慶びを申し上げます。平成19年９月より、勤務しております九州大学病院に文部科学省大学改革推進事業のサポートを得て、「女性医療人きらめきプロジェクト」を立ち上げました。水田祥代元病院長の絶大な後押しで昨年はこの事業がやっと軌道にのり、子育て中の女性医師7人、歯科医師8人、看護師３人が九州大学病院に復職しました。子育てと両立させるためにワークシェア、フレックス制で勤務しており、キャリア途中で断念していた専門医取得や大学院で積み残した研究の継続、最先端の医療技術の習得をめざしています。同時にこれらの女性医師による女

「食欲」を科学する

ツムラ六君子湯の新しいエビデンス

食欲増進作用をもつペプチドGhrelin（グレリン）の分泌改善作用（ラット）[1)]

胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの

食欲不振、胃炎、消化不良に

〔食欲不振改善〕漢方製剤

43　ツムラ六君子湯（リックンシトウ）

エキス顆粒（医療用）　薬価基準収載

効能又は効果

胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症：胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐

用法及び用量

通常、成人１日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意（抜粋）

1.重要な基本的注意　(1)本剤の使用にあたっては、患者の証（体質・症状）を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。 (2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。 (3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

2.相互作用　併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等：カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤

3.副作用　本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。 (1)重大な副作用　1)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察（血清カリウム値の測定等）を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。 2)ミオパシー：低カリウム血症の結果としてミオパシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。 3)肝機能障害、黄疸：AST（GOT）、ALT（GPT）、Al-P、γ-GTP等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

＊その他の使用上の注意等は製品添付文書をご覧下さい。

〔文献〕 1) Takeda, T. et al. Gastroenterology. 2008, 134(7), p.2004.

株式会社ツムラ　http://www.tsumura.co.jp/

●資料請求・お問い合せは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。 0120-329-970　（2008年11月制作）

■使用上の注意等の改訂には十分ご留意下さい。　GY-0431

性患者のための女性総合外来も設立し、「女性医療人きらめきプロジェクト」を支持する各診療科の実行委員の協力も得たネットワークにより、女性総合外来の患者さんのあらゆる訴えに対応しています。しかし、九州という土地柄か、学内での理解や協力を得るのは厳しく、長い目で見て医療系学生のジェンダー教育から始めねばならない状況です。医学科、保健学科、歯学部の初期カリキュラムに昨年度からジェンダー論を２コマ入れていただきました。また、復職できなくてもインターネットがあれば、自宅から学習できるe-ラーニングを「女性医療人きらめきプロジェクト」のホームページから見られるようにコンテンツの充実を図っております。このプロジェクトに関わるにつれ、女性医療人だけでなく全ての医療人の労働環境を底上げしなければ、女性医療人のキャリアの継続は望めないということを強く思うこのごろです。今年度で終了するこの事業を継続させるべく、丑のごとく粘り強く取り組む年となりそうです。どうぞ皆様、下記のHPから、よろしければご参照下さい。登録もしていただけますと幸甚です。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

http://kirameki.med,kyushu-u.ac.jp/main/index.php

年頭所感

佐賀支部　**横須賀慶子**

明けましておめでとうございます。21世紀に入り早10年が過ぎようとしています。1885年 荻野吟子先生女医公許、1902年 前田園子先生主盟により日本女医会創立、1914年 日本女医会第１回総会、その後国の混乱で時として中断があった会も、1955年戦後再建第１回総会吉岡弥生会長が選出され今日に至り、諸先輩の御苦労とたゆまぬ努力に改めて頭が下がる思いです。1967年会長になられた私の知る三神美和先生、あの小さなお体で後輩の者たちに身をもって道を示されていました。多忙な毎日の中で、ふと思われるのは、現在女医の存在が色々な方面から取り沙汰されていますが、発足から脈々と続く熱い思いを持った日本女医会の先生方の息吹を伝えるための努力がどのように進んでいくのか、ということです。医師として学んでいく中で身につく信念は、医師教育現場である大学生活の中、又働きながら学ぶ大学病院、研究室の中でつくと思います。その現場の環境が男性であれ女性であれ劣悪な労働環境であることのアピールがあまりにも少な過ぎると思います。医師は、泥の様に疲れた体で、充分な生活保障がない雇用状態で医療技術を身につけなければならない状況がずっと続くわけです。現在の体制を変えない限り最も大切な教育陣が減少し、医学教育もままならない状態になるのは確実です。中座せざるを得なかった女性医師への援助と共に、豊かな家庭生活ができる医師像が思い浮かぶ職業にする。医師数の増員、教育陣確保のための国の雇用条件の見直し、教育予算の充足が急務と思います。人が人を診る仕事がある医療は常に正しい判断と対応が求められ厳しい批判にさらされます。それも医師が足りないために起こることがほとんどです。より優しい医療環境を作るには耳障りの良い目先の対策に踊らされず、まず自分でできることを確実に遂行する一年にしたいと思います。今年もよろしく御指導下さい。

年頭雑感

長崎支部　**石井伸子**

あけましておめでとうございます。市内の病院の検診部に勤務して２年目になりますが、一般住民の方々の健診に対する意識、そのとらえ方が様々であることを実感しています。指摘された異常への対応を見ても、著明な貧血が次年度まで放置されたり、胸部異常陰影の精密検査が何ヶ月も後になったり、脂質異常や肝機能異常などに至っては放置される方が如何に多いことか、何のための健診だったのかと思うようなことが多々あります。それでも、昨年指摘されてからウォーキングを始めましたと言う方の改善されたデータを見ると、うれしくなり元気が出ます。

厚労省は昨年４月に特定健診、特定保健指導を導入しました。特定健診は多くの課題を抱えながら少しずつ受診数が増加してきていますが、保健指導の方はさっぱりです。予防を重視して医療費を抑制することを目的としたこの制度は、今年どこまで進んで行けるのでしょうか。予防に十分な支出がされなかったこれまでの体質が払拭されて、予防医療の進展が見られるのか、予防にお金を掛けることの重要性がどこまで浸透するのか、不安とともに期待を込めて見守っていきたいと思います。

第 54 回（社）日本女医会 定時総会ご案内

新年を迎え、会員諸先生方におかれましては益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。
さて第54回定時総会は大阪において下記要項にて開催致します。多くの会員の皆様のご参加を現地会員一同、心からお待ち申しあげます。

大阪支部連合会会長　野崎京子

開催日　2009 年 5 月 16（土）～ 17（日）
場　所　ホテルグランビア大阪（大阪駅構内）
大阪市北区梅田 3－1－1　　ＴＥＬ：06－6344－1235

行　事　**1）2009 年 5 月 16 日（土）**
ＰＭ 4：00　総会受付開始　　参加登録費　3,000 円
◎ 評議員会　ＰＭ 5：00 ～ 7：00
◎ 懇親会　ＰＭ 7：30 ～ 9：00　　懇親会費　15,000 円
・ソプラノ歌手　河村さと子独唱（京都市立芸術大学音楽部卒業 兵庫大学短期大学准教授）

2）2009 年5月 17 日（日）
◎ 総会　ＡＭ 10：00 ～ 12：00　　昼食費　2,000 円
◎ 講演会　ＰＭ 1：00 ～ 3：00
・ 国際女医会会長　平敷淳子先生
・ 前九州大学病院院長　水田祥代先生

オプションご案内

2009 年 5 月 16 日（土）開催

1）宝塚歌劇観劇　於　宝塚大劇場
ＡＭ 11：00 開演 「宙」組公演　　参加費　15,000 円
Ｓ席チケット　昼食　パンフレット　往復専用バス込み
ホテルグランビア大阪から専用バス　ＡＭ 9：00 出発
終了後は全員　バスにて　ホテルまで帰り　チェックイン
※　アクセスは伊丹空港、新大阪駅から等ありますが、いずれも 1 時間はみておいてください。
インターネットでの参照をお願いします。
既にお申し込みされた方々も多いと思いますが、まだ少し残席がございます。
お早めにお申し込み下さい。

2）ゴルフ親睦会　於　西宮Ｃ．Ｃ　ＡＭ 8：30 スタート
遠方からの先生は前日からの大阪宿泊をお勧めいたします。全員送迎の手配致します。
プレー費（キャディー、カート付き　食事別）　　費用　30,830 円

お申し込みお問い合わせは日本女医会事務局までにお願い致します。
電話：03-3498-0571　FAX：03-3498-8769　メール：office@jmwa.or.jp

委員会報告 子育て支援委員会報告

10代の性の健康支援ネットワーク作り事業（通称「ゆいネット」）では、今年度、札幌、盛岡、名古屋、岡山の4モデル地区で、関係諸機関の横断的な連絡協議会を行う予定です。

11月23日に札幌で、11月27日には盛岡での連絡協議会が開かれましたので、ご報告します。

「ゆいネット連絡協議会 in 札幌」での会議

子育て支援委員　**堀本江美**

全国4地域のトップバッターとして、平成20年11月23日、札幌で第1回目のゆいネットが開かれました。札幌市の関係機関、保健所、児童相談所、教育委員会、警察の生活安全部、産婦人科医会、小児科医会、市会議員3会派の方々、国際医学生連盟日本から代表して北大の医学生、日本女医会関係者を含め、総勢25名の出席がありました。前副会長の鹿田儀子先生のごあいさつから始まり、みな緊張した面持ちで会がはじまりました。

9月に女医会本部から協力依頼した厚生労働省、文部科学省、警察庁からの返事が遅れ、札幌の準備がスタートできたのは、10月下旬でした。ですから、関係各機関との交渉の時間が明らかに不足していました。私も産科の開業医をしていますので、昼間に関係機関を訪問する時間がなかなか取れず、子育て委員の名刺もまだできておらず説明に苦労しました。どの機関の方も、このような会への出席依頼は初めてとのことで、戸惑っていた様子でした。

しかし、ちょうどその頃に、札幌で、8年間監禁されていた19歳女性の事件が報道され、長く救済できなかった札幌の縦割り行政のまずさが露呈していました。ですからこの集まりは、札幌にとっては、まさに必要な会議だったといえます。

会議の席上で、札幌市保健所では3年前より10代向けの教育パンフを作成しているが、医療機関に郵送するのみで、実際は十分な活用ができていないことが わかりました。医師の説明の助けにするために医療機関に送付している、という説明でしたが、おおかたの医師は、このパンフの存在すら知らないという現状です。しかしこのパンフは評価できる良質のもので、性教育活動を行っている医学生には好評でした。教育委員会は指導要綱を示すのみで形式的な説明でした。警察の担当者は、「警察の役割は、事件の被疑者を確保するだけで、その後は法務局の管轄であり警察は関知しない。あなたがたはしくみをご存じないのか。被害者救済も始まったばかりでまだ動いていない。」というお話でした。いっぽう、産婦人科医会は、20年にわたり学校での性教育講演をしてきましたが、教師や教育委員会との十分な話合いは持たれておらず、忙しい時間をさいて出向いても教育側の熱意が感じられないと、やりきれなさの訴えもありました。

3時間弱の短い時間に、多くの問題点が浮き上がってきました。明らかに、各機関どうしの話合いが不足していることがわかりました。話し合わず、お互いに理解することなく、また問題点を指摘することなく、報告書だけが作成されている現実を感じました。そして、この会議の意義を深く感じる結果になりました。今後、日本女医会からどのような呼びかけをしていくべきか、じっくり考えてまいりたいと思います。

「ゆいネット連絡協議会 in 盛岡」開催報告

子育て支援委員　**斉藤恵子**

岩手山に雪が降り積もり、里にも雪が舞い始めるこの時期11月27日(木)、JR盛岡駅西口にある岩手県民情報交流センター「アイーナ」801会議室において当協議会はスタートいたしました。

17:00からの開催にも関らず、以下の24名の方々がご出席くださいました。岩手県立大学看護学部で青少年の性の健全育成研究や実践に取り組んでいる准教授、県や盛岡市の保健・福祉・教育の行政関係者、少年刑務所・児童自立支援施設・児童相談所の更生や相談・指導機関の長、少年課や少年センターの警察・補導機関の長、中学校長、小・中・高の養護教諭、スクールカウンセラー（臨床心理士）、デートDV防止のための指導書作りに取り組んでいる女性センター長兼NPO法人理事長、小児科、産婦人科、泌尿器科、精神科の医師など24名（3名欠席）。多くの関係者に当事業の趣旨をご理解いただき、ネットワーク作りにご協力いただきたいとの熱い思いから、27団体・個人にお声掛けしましたところ、みな快く協議会メンバーを引き受けてくださいました。

会議時間が2時間と限られており、かつ多数の参加者でしたが、各団体・個人がどのような事業に取り組み、どのような問題を抱え、どのように苦悩しているのかを皆で共有することがネットワーク作りの基礎に

なるとの考えから、次の4点を中心に配布資料をご持参いただいたうえでご報告いただきました。①「各々が取り組んでいる十代の性の健康や問題等に関する」（以降、※で表記）事業の紹介、②※統計的数値、③※関係者間の連絡会議やネットワーク、④十代の性の健康や問題等を取り扱う上での問題点。

3～4分の限られた時間でご報告いただきましたが、皆様が熱く語ってくださったため、会議時間がオーバーし、予定していた「意見交換」が出来ませんでしたが、十代の性の健康問題を取り扱う上での問題点として、①自尊感情を育てる乳幼児期の母子関係の大切さへの認識の低さ、②親子、家族間の絆や役割の希薄化、③性教育についての学校や教育委員会の壁、④性情報の氾濫、⑤性被害に対する大人の現状認識の甘さなどについて、会議上での報告や会議終了後のアンケートに記載されました。また、性の健康支援にどのような連携や方策が必要かという点に関しては、①母子保健からの生と性の教育を推進して行く仕組み、②教育委員会の指導による学校現場での系統だった性教育、③種々のサイトで性情報が氾濫する中、情報化社会に対応した各種機関との連携、そして意識啓発、④学校との連携による大人も交えた地域ぐるみの思春期講座や性教育のシステムの構築など、青少年のみならず大人も含めた地域ぐるみでの性教育の必要性が浮かび上がりました。

今協議会を契機に、今後の各々の活動の活性化に向けて情報交換の場をとの希望もあり、参加者間でメーリングリストを作ろうとの動きも出ており、この協議会がいかに必要とされていたか、いかに有意義だったか、報告書を作成しながら改めて感じている次第です。ご参集いただきました皆様にこの紙面をお借りし、改めて御礼申し上げます。

委員会報告　長寿社会福祉委員会報告

在宅高齢者（嚥下障害者、胃瘻造設者）の栄養管理事業

長寿社会福祉委員会　**山本纉子**

長寿社会福祉委員会は、独立行政法人福祉医療機構からの助成を受け、平成20年度～21年度にかけて「在宅高齢者（嚥下障害者、胃瘻造設者）の栄養管理事業」として活動を展開しております。

本来「食事は口からおいしく頂く」というのが当たり前と考えますが、高齢社会となり、脳血管障害、パーキンソン病などの神経難病により嚥下障害を来たし、経口摂取ができず経管栄養や胃瘻造設を余儀なくされる高齢者が増加しつつある現状に鑑み、嚥下困難あるいは人工栄養管理の患者さんの介護をされている家族の方、ヘルパーさんあるいは栄養士、看護師などの医療関係者のために教育DVDを作成し各地で講習会を開催しております。

すでに第1回講習会は11月1日（土）に名古屋都市センターで実施され参加者約80名と盛況でした。第2回は、来る2月7日（土）、13時～16時にルークホール（東京都新宿区四谷1－7、Tel：03-3358-7211）で開催することになりました。

高齢者の栄養管理は、生命維持のみでなく、嚥下機能低下に伴う誤嚥性肺炎防止に関連して非常に重要な問題となっています。この事業を通して単に身体的な管理に終始せず、介護を担う人々に終末期の諸問題を考える機会を提供できればよいと願っています。

2008年

第9回国際女医会西太平洋地域会議

2008年MWIA-WPR @メルボルンにNCとして出席して

ナショナルコーディネーター　**内潟安子**

2004年に日本女医会がお世話した26回国際女医会議（MWIA）が東京（京王プラザホテル）で開催され、翌年にフィリピンの首都マニラで2005年国際女医会西太平洋地域会議（MWIA-WPR、於マニラホテル）が開催され、2007年27回MWIAがガーナの首都アクラのラ・パーム・ビーチ・ホテルにおいて開催されたことは記憶に新しいところである。

3年ごとの国際女医会議が開催された翌年は、やはり3年ごとの国際女医会西太平洋地域会議開催の年である。ちなみに、参加国は国内女医会が存在して、国際女医会に所属している国である。現在のところ、

ガラディナーを前に各国の衣装を着て集合。

日本、韓国、フィリピン、オーストラリア、台湾の5ヶ国で、現在の地域副会長は台湾のヤング女史である。

2008年はオーストラリア女医会が担当で、メルボルンのソフィテル・メルボルンホテルで10月17～19日の3日間、本会議が開催された。今回は日本から平敷淳子国際女医会会長を含めて、日本女医会小田会長以下総勢13人の参加であった。

今回のテーマは6つで、

1. 環境と健康
2. 暴力・戦争・テロが女性と子どもに及ぼす影響
3. 医学における女性のプロフェッショナル性
4. 健康増進へ向けての改革
5. 感染とワクチン
6. advocacyと健康政策

である。

登録参加人数は87人と、前回のフィリピンでのMWIA-WPR会議と比べて小規模であった。この意味するところはあとで考察する。

1日目は午前に病院訪問、午後から最終日までは、ホテル内での会議、討論というスケジュールであった。

1日目の午後は、平敷MWIA会長を座長に、リーダーシップ発揮へのバリアとは？　そこからの脱出のためのレッスンであった。医学部学生も参加しており、最後にはロールプレイにより実践もあった。

2日目の午前は環境と健康についての講演であった。昨今の地球温暖化ガス、つまり二酸化炭素がその大半を占めるものであるが、火力発電、工業、交通機関、農業によって地球温暖化ガスが発生していることは周知のことである。これによる気候のダイナミックな変化が、我々の生活、自然界に大きなマイナスの変化をもたらしていることがリマインドされた。

子宮頸がん予防のためのHPVワクチンについては会長がHP上で言及されている。もうひとつおもしろい企画だったのは、マスメディアへの健康プロモーションについて、女性国会議員、女性TVキャスター、女性のヘルスサービスコミッショナー、女性のマーケティングエキスパートたちを壇上にあげて侃々諤々の討論をおこなったことだ。丁々発止とはこのことで、話についていくだけで精一杯だった。

3年後の2011年は日本でこの会議を開催することになっている。時期、場所は未定である。決まり次第、会誌でアナウンスし、多くの会員の参加をお願いしたい。

最後に、参加者がなぜフィリピンの本会議より少なかったのか考察すべきであろう。これは女医会の存続の問題にも繋がると思う。フィリピンと決定的に異なるのは先進国であるかそうでないかであろう。先進国の女医会のニーズとはなにか、再度考えるときが来たと思われた。これはしかし日本での会議をどのように企画するかに直結する問題であり、会員各位のご意見をぜひ賜りたい。

初めてのオーストラリア

大阪第７支部　**大矢明子**

この度の国際女医会出席については、平敷淳子先生が会長で吉馴茂子先生のお誘いと、出席経験のある友人の留守引受けと応援、高齢考慮のため娘の同伴と条件が整い実現しました。出席のお歴々の先生方には気軽に優しくなにかと気配りして頂き有難うございました。

会議はフロアーも巻込む活発な討論もあり意気盛んでした。大会に盛り込まれたガラパーティーは、舞台から鳴り響く生演奏の中、民族衣装が入り乱れ、大坪公子先生がオペラ蝶々夫人からアリア「ある晴れた日に」を独唱され、皆うっとりしました。

パッフィングビリー鉄道に乗車。

各国の参加者と記念撮影。このあと民族衣装をチェンジした。

メルボルンは公園の街、一歩外へ出た所のフィッツロイ庭園の中にキャプテンクックの家や花いっぱいの温室があり、カトリックのセント・パトリック大聖堂や博物館が点在。街を離れて、開拓当時の姿のパッフィングビリー鉄道の乗車、オウムやインコの餌付け、会議終了後、ゴールドコーストへ移動、世界遺産の森の樹齢2000年の南極ブナの「生きざま」を見、カルデラ地形の望める展望台、吊橋、好天気の浜辺ではメリケン粉の様な柔らかい砂浜の向こうにサメ除けの囲いの中で泳ぐ人。夜になって世界遺産ナチュラルブリッジ国立公園の暗闇の中に無数に神秘的に光る土ボタル。突如木の隙間からくっきり天の川まで見える星空が現れ、皆思わず歓声をあげました。すばらしいディナーをいただいてツアーは終わりました。

帰国して思うことは、こちらは若い人達ばかりが目につき、カップルをみれば子供が一緒、日本の長寿世界一と共に、若い人達が安心して生み育てられる社会にしなければならぬと考えさせられました。

国際女医会（MWＩA）西太平洋地域会議に参加して

理事　**吉馴茂子**

2008年10月17 ～ 19日、オーストラリア女医会主催のもとメルボルンで上記会議が開催されました。日本女医会からは、平敷女医会長、小田、内潟、山崎、濱田、藤川、川村、角田、山本、大坪、大矢、吉馴の計12人が出席し、参加国は日本、オーストラリア、韓国、台湾、ニュージーランド、フイリッピンの計6カ国でした。研究発表はオーラル、ポスター、ワークショップ、ディスカッション等活発に行われ、ロビーではあれこれ各国の間で会話がはずみました。18日の歓迎夕食会では各国が民族衣装で登場し会は深夜

開会式で3年後の開催をアピールした。

まで大いに盛り上がり、フォークダンス等に飛び入りしたりして、互いに友好を深めた楽しい3日間でした。

さて国際女医会は1919年、米国で創立された5大陸の女性医師から成る組織で、現在70カ国が参加しております。これらを8つの地域に分けて各地区から副会長を出して、実行委員会を形成しています。加えて前会長、次期会長、財務担当、事務局長の4人が専任されていて会長を補佐します。日本が属するのは今回の西太平洋地域です。この会議は毎回国際女医会の翌年に開催され、現在までの開催地は1993年日本（京都）、1996年ニュージーランド（オークランド）、2002年台湾（台北）、2005年フイリッピンでした。次は3年後で日本が主催する事になっています。さて国際会議ですが、これは3年ごとに世界各地で開催され、最近の開催地は1989年韓国（ソウル）、1992年グアテマラ（グアテマラ）、1995年オランダ（ハーグ）、1998年ブラジル（サンパウロ）、2001年オーストラリア（シドニー）、2004年日本（東京）、2007年ガーナでした。次の会議は2010年7月28 ～ 31日ドイツ（マンチェスター）で開催されます。

ところで日本からの国際女医会会長は1976年に東京で開催されました第15回国際女医会議の会長 小野春生先生のみで、実に33年前の事でした。さて時代はすっかり変わり、現在国際女医会会長には日本の平敷淳子先生が選出されています。先生は見事な英語を話され、長身であられ颯爽と世界を駆けまわって半分は海外だとお伺いしています。今後ドイツと日本で国際会議が開かれます。会長の出身国として日本女医会は、総力を挙げて世界に勇躍、日本の地盤を押し上げたいものと思います。

台湾のメンバーは全員で先住民族ダンスを披露。

寿 祝！　橋本前会長　叙勲

このたび、橋本葉子先生が 2008 年秋の叙勲で「瑞宝重光章」を授与されました。日本女医会を挙げてお祝い申し上げます。

2008年秋の叙勲で「瑞宝重光章」を授与されることになり、11月5日午後、伝達式に出席して参りました。皇居の「松の間」で、麻生総理大臣より勲記と勲章が伝達され、その後「豊明殿」で天皇陛下に拝謁致しました。

瑞宝重光章の授与対象は、「国家又は公共に対し功労のある方、公務など長年にわたり従事し成績を挙げた方」となっております。

私の場合は、

1. 大学の副学長、学長代行を経験したこと。
2. 国際女医会副会長(西太平洋地域担当)として国際的に活動したこと。
3. 国連NGO国内婦人委員会副委員長として、女性の国連関係の活動の支援や、外務省の委託による日本・アラブ女性交流事業に参画していること。
4. 内閣府男女共同参画推進連携会議副議長として、連携会議および関連委員会の委員として参画・活動していること。

等が評価されたようです。

大学関係以外は、日本女医会の皆さまのご協力・ご支援によってなし得たことでありますので、私は皆さまの代表として、この叙勲の栄誉に浴したものと、改めて女医会の皆さまに感謝申し上げます。私も後期高齢者の仲間入りを致しましたが、幸い元気にしておりますので、これからも何かしら皆さまのお役に立てるよう努力したいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。　　橋本　葉子

＊瑞宝章の種類は大綬章、重光章、中綬章、章綬章、双光章、単光章となっております。

中東アラブ訪問記

副会長　**津田喬子**

第22回日本・アラブ女性交流事業により平敷淳子国際女医会会長（団長）、小田泰子（社）日本女医会会長と私の３人は、2008年10月31日から11月7日にかけてヨルダン、シリア、エジプトを歴訪する貴重な機会を得ました（スケジュール表参照）。この事業は1993年に日本を訪問されたヨルダンのバスマ王女と当時の中曽根首相との発案により1996年に設立され、国連NGO国内婦人委員会が外務省からの委託を受けて行っているものです。本年度は日本女医会が担当となり、メインテーマを「Leadership, Achievement and Accomplishment；リーダーシップの達成とその成果」として訪問が実現しました。

ヨルダン、パレスチナ、エジプトに加え、今回からこの事業にシリアが参加することとなり、初めてのシリア訪問という責任の重さを感じました。

10月31日の夜に関西国際空港をたち、最初の訪問国ヨルダンのアンマン空港に到着しました。

11月1日ヨルダン女性総連盟（General Federation of Jordanian Women; GFJW）で意見交換会が開催されました。出席者は会長のNuha Ma'ayta女史、ヨルダン大学小児科教授Najwa Khuri-Bulos先生、放射線科医師Nawar H. Fariz先生はじめ総勢30名余でした。まずはビデオによりGFJWの活動が紹介されました。平敷先生は「Status

of Women Physicians in Academia and Enhancing the Leadership Opportunities；女性医療指導者への道程」と題して、女子医学生が30％を占めている日本の現状を紹介し、指導者への道程には結婚、出産、競争社会での戦いなど超えていかなくてはならないハードルがあることを話されました。次に小田先生は「The History of the Japanese Education System；日本における学校教育と女性」と題して教育の歴史のなかで、女性には高い教育と能力にみあった役割が与えられてこなかったこと、日本の女性が社会でより良い地位を得て、指導的な役割を果たすことを望むと話されました。津田は「Leadership in Women's Education in Health Science- The Role of Japan Medical Women's Association -；女性の健康教育におけるリーダーシップ―日本女医会の果たす役割」と題して日本の女性医師誕生までの苦難な道、日本女医会設立の意義、女性医師育成、母性および児童保護の推進などを通して日本各地にリーダーが育ってきたことを紹介しました。

ヨルダンでは1977年以来女子医学生は50％、クラスのトップは女性であるが10年後のチーフにはなれない、よく働くがリーダーの多くは男性であるなど、私たちが置かれた立場と共通することが多いと話されていました。午後からは女性・福祉活動家で歯科医のAmal Zureikat Sharaiha先生がOperation Smile Jordanというボランティア活動を紹介されました。

夜はNuha Ma'ayta会長宅で夕食会が開催され、クナフェというチーズ入りの伝統的な焼き菓子やヨルダン料理を楽しみました。

翌11月2日にはヨルダン大学医学部を視察しました。英国、米国、スウェーデン、オーストラリアなどと研修の提携を結び、外国での研修をサポートしているとの話を聞き、皆さんの流暢な英語が理解できました。ヨルダン大学小児科教授Najwa Khuri-Bulos先生が医学部、病院を案内して下さいました。

保健省、児童・女性局においても最近は女性指導者が多くなったことが紹介され、なかでもヨルダン女性委員会（The Jordan National Commission for Women; JNCW）のAsma Khader事務局長は素晴らしいと説明されました。

次はいよいよバスマ王女表敬訪問です。10名がお部屋へ通されて待つこと数分、にこやかにバスマ・ビント・タラール王女（Her Royal Highness Princess Basma Bint Talal）が入って来られました。バスマ王女は上級ポジションに女性が就けるように応援演説をされるなどヨルダンの女性支援の大きな力となっておられ、女性の経済参画と暴力追放の2つの目的を推進されています。平敷先生は国際女医会会長の立場から、ヨルダンが国際女医会に未加入であると加入を勧められました。会談の終わりに日本からのお土産をお渡ししました。

午後は共学の私立学校を訪問しました。幼稚園から高校まであり、幼稚園から英語を教えていました。女学校の教師は女性のみであり、男子校には女性教師がいないことや、男性は教えることが好きではないなど、興味ある話が聞けました。

夕方にはGFJW会長のサケット女史（MS Anas Saket）宅でのパーティに招待されました。美しい大邸宅にはヨルダン前駐日大使夫妻、JNCWのAsma Khader事務局長、ヨルダン大学小児科教授Najwa Khuri-Bulos先生をはじめ35名近い招待客が集まりました。サケット会長在任中には612のプロジェクトが遂行されたとのことで、活動記録のビデオが上映されました。国連NGO国内婦人委員会からの感謝状と日本女医会からのお土産を贈呈しました。

次の訪問国シリアには、1時間程度の飛行で到着。夜遅くにもかかわらずシリア大使館の森安克美参事官、シリア女性総連盟（Syrian General Union of Women）の理事兼保健部会長で薬学博士のProf Dr. Kawkab DayehとDr. Samaher Laikaの出迎えを受けました。まずは在シリア日本大使館を訪問、大使館は大理石の床で、中は日本風のアレンジが施されていました。シリアとは初めての交流ということで、今日の会議には英語、アラビア語、日本語ができる大使館職員の通訳がつき、国枝昌樹大使夫人が同行されるという歓迎ぶりでした。1958年から1961年まではエジプトとシリアは同一国であったことや、アッタール副大統領（女性）は考古学分野に関係が深いことなど情報をいただきました。

Prof Dr. Kawkab Dayeh、Dr. Samaher Laika、森安参事官、通訳の大使館員等と一緒にMs. Sauad Backourシリア女性総連盟会長とお会いしました。会長は、子ども達の支援にJICA(Japan International Cooperation Agency：独立行政法人国際協力機構)が貢献していること、日本からの女性ボランティアによる幼稚園教育が今後続くことを希望する、女性医師のみならず他種の女性との交流も希望するなど、話が弾みとても喜んで下さいました。

Dr. Samaher Laikaは元文部科学省の国費留学生として群馬大学医学部に留学した経験があるリハビリテーション医です。日本語、英語、アラビア語を使い、名前のLaikaを「雷花」と書くほど親日家です。

次いでアッタール文化担当副大統領（Dr. Najah Al-Attar）、フサミ保健大臣（Dr. Maher al-Husami）、アスマ大統領夫人を表敬訪問しました。アッタール文化担当副大統領は中学教員を経て小説、論説の書き手とてして活躍された後に女性で最初の大臣となった方です。アスマ大統領夫人はすらりとした美しい方で、3人のお子様の母

として、シリアの農村開発、障害者・女性の社会参画など幅広い社会活動を始めとした公務をこなされています。

午後はセミラミスホテルでのシリア女性総連盟主催のワークショップに参加しました。私達の来訪を歓迎するアラビア語で書かれた緑色の垂れ幕をバックにしたひな壇が用意され、ほぼ70名の参加者で会場は満員でした。アラビア語での質問が次々とあり大使館員の女性2人と「雷花」先生が英語に直し、私たちの英語をアラビア語にしての質疑応答は延々3時間を超過しました。

私たちのシリア訪問は新聞、テレビで大きく取り上げられました。

翌日は、Amal障害児学校訪問、バース党地域指導部メンバーであるシャヒナーズ・ファクーシュ（Shahinaz Fakoush）市民組織担当局長訪問後、ダマスカス市内視察をしました。町中に残る城壁は紀元前1世紀ローマ時代に築かれたという古いもので、その隣にあるスーク・ハミディーユ（市場・バザール）でショッピングを楽しみました。ウマイヤド・モスクは世界有数のイスラム寺院で、頭から体をすっぽり包むガウンを着て中に入りました。美しいステンドグラスに包まれた荘厳な雰囲気を味わいました。シリア料理の昼食を楽しんだ後、最後の訪問国エジプトへ発ちました。

11月5日はカイロ大学医学部で医学部長（Prof.Ashmed Sameh Faid）、副医学部長（女性；Prof. Dr. Lamis Ragab）、副医学部長（女性；Dr. Nadia El-Feky）、国家母子評議会のDR. Azza Said EL Ashmawyらと会談しました。エジプトでは1922年に女性医師が誕生し、現在では3人のカイロ大学医学部長のうち2人は女性であり、多くの女性が重要ポストに就いているとのことです。

女性医師との意見交換会がDr. Nadia El-Fekyの司会で開催されました。エジプトでは多くの重要ポストに女性はいるが、まだ学長はいないこと、家庭では女性は力を持っているが公共の場では声を上げない、女性は下地をつくるが成果は男性がとってしまうなどの本音も聞かれました。

午後からは病院を訪問しました。1つは1200床のNew Kasr El Aini teaching Hospitalで、あとの1つは600床のSpecialized Pediatric Hospitalです。どちらの病院長も女性でした。前者は中東随一の規模を誇りカイロ大学の教育病院で、後者の小児病院救急部門はJICAの支援で立ち上げられたもので，尽力した医師が私の教室員であったことから特に訪問が楽しみでした。ICUには日本の医療機器が設備されており嬉しく思いました。

夜は石川大使との夕食兼意見交換会が大使公邸で開催されました。石川大使ご夫妻、森広報文化班長、小杉医務官、井上看護師、安永書記官と会食しました。エジプトの歴史など多くの話を興味深く聞くことができました。

11月6日は今回のエジプト訪問の中心的受け入れ先である国家母子評議会(National Council for Childhood & Motherhood; NCCM)を表敬訪問しました。事務局長Ambassador Moushira Khattabとその妹さんのDr. Madiha Khattab（カイロ大学医学部内科教授。元カイロ大学医学部長）、Dr,Hoda Tahawy等と懇談をしました。テーブルには生花が飾られ、エジプトと日本の国旗も置かれていていました。まだまだ郡部では貧しくて子ども達は学校へいきたがらない現実も知りました。午後は近郊のBadrasheenにある女子学校を訪問しました。子ども達が寸劇を用意していて、はにかみながら懸命に演じて歓迎してくれました。ここでお土産のボールペンが役に立ちました。

皆様のお蔭で安全に全ての行事を終えることができたことに心から感謝します。この中東アラブの訪問から多くのことを学び、日本の良さを再確認できた貴重な体験でした。

訪問前には国連NGO国内婦人委員会の平松昌子様、橋本葉子先生から貴重なご示唆をいただきましてありがとうございました。日本女医会の理事の皆様には多くのお土産品を調達くださいましたことを改めて御礼申しあげます。各地でとても喜んでいただけました。女医会事務局の皆様には旅行の準備、外務省担当官との連絡等ありがとうございました。

最後となりましたが、外務省中東アフリカ局・中東第一課三上正裕課長様、今村隆二様、在シリア国枝大使ご夫妻様、在エジプト石川大使ご夫妻様、ヨルダン、シリア、エジプト各日本国大使館の皆様に心より御礼を申しあげます。

第20回　日本・アラブ女性交流（派遣）日程

月日	昼	夜	宿泊
10/31（金）		羽田発→	機内泊
11/1（土）	ドバイ→アンマン 意見交換会	GFJW会長主催夕食会	アンマン
11/2（日）	皇室関係、学校、GFJW会長など表敬訪問	アンマン →ダマスカス	ダマスカス
11/3（月）	大使館、大統領夫人など表敬訪問、大使主催内輪昼食会意見交換会	シリア女性医師との意見交換会	ダマスカス
11/4（火）	Amal障害児学校訪問 市内視察	ダマスカス →カイロ	カイロ
11/5（水）	カイロ大学医学部幹部訪問、意見交換会（母子評議会）、病院視察、女性病院長表敬訪問	大使と夕食兼意見交換会	カイロ
11/6（木）	前社会保険社会問題担当大臣表敬訪問、女学校視察	カイロ発	機内泊
11/7（金）	早朝ドバイ発→	帰国	

第2回 軽井沢セミナー報告と今後の予定

理事　**小関温子**

日　時　平成20年11月8日(土)、11月9日(日)
PM5：00～9：00
場　所　「ホテル鹿島の森」 オークラ系のホテルで環境は抜群、紅葉でも有名な雲場池にも近く散策に最適、美術館も多数あり。
会　費　1泊2食付き（通常料金は宿泊のみで3～4万円）　ツイン1人：3万円　ツイン1人利用：3万7千円
参加者　木村あさの（青森）、山口淑子（岩手）、深井登起子（埼玉）、村田郁（埼玉）、馬場恭子（福島）、新井寧子（栃木）、鹿田儀子（北）、斉藤文子（世田谷）、溝口昌子（中野）、石原幸子（練馬）、角田由美子（練馬）、稲生襄（神奈川）、冨岡瑞子（神奈川）、前田佳子（神奈川）、山崎トヨ（栃木）、川村富美子（足立）、小関温子（神奈川）
順　路　東京駅から長野新幹線軽井沢駅下車（約1時間10分位）タクシーで5分
会　場　ホテル2階ラウンジ

11月8日（土）

PM 5：00～6：00　茶話会
PM 6：00～7：00　ミニレクチャー（敬称略）
演題　「女性の排尿障害―尿失禁と過活動膀胱―」
講師　前田佳子（東京女子医大附属青山病院泌尿器科部長）

参加した先生方の年齢に適したテーマであったためか、講演後は多くの質問をいただきました。女性医師だけの集まりであったこともあり、リラックスした雰囲気で好評でした。

今後、レクチャーは各分野の専門の先生に講演をお願いすることにし、第4回のセミナーまでの演者を以下の通りと致しました。お二人の先生には快く講師をお引き受けいただきました。

○第3回　平成21年10月31日（土）
講　演　皮膚に関するアンチエイジング（仮題）
講　師　溝口昌子（聖マリアンナ医大名誉教授、前同大皮膚科主任教授）

○第4回　平成22年11月頃
講　師　新井寧子（東医療センター耳鼻科教授）
PM 7:00～　夕食会

レストランの用意されたテーブルからライトアップされた紅葉が、大きなガラス窓の額に入った絵のように見事な眺めで、先生方は感激されていました。

フレンチのフルコースは石原幸子先生のご配慮で量は少なめ、お味の良い食事をお選び頂き大変美味で好評でした。会食しながら自己紹介を兼ねて女医会の今後のあり方、医療に関する問題などたくさんの意見が出て予定の時間をオーバーしてしまいましたが、充実した楽しい会であったと思います。楽しかった会の余韻もあり、部屋からコップや飲み物、おつまみなど持ち寄り1部屋に集まって二次会をし、時の経つのも忘れるほど和やかな楽しい夜でした。

11月9日（日）

ホテルのレストランから紅葉のお庭を眺めながら朝食をいただき、来年お目にかかれますことを楽しみに観光組、ゴルフ組に分かれました。

本年の軽井沢セミナーは、紅葉の美しい日に恵まれました。私は今までにも何度か秋の軽井沢を訪れていましたが、町全体が紅葉に包まれている風景を初めて堪能いたしました。

今回は何かと準備が遅れ、各支部長様にはご案内致しましたが多くの会員の先生方にご連絡ができず申し訳なく思っております。

しかし、思いがけず遠く青森支部、岩手支部からもご参加があり、大変感激いたしました。

来年は日時も決まっておりますので多くの会員のご参加をお待ちしております。

軽井沢セミナーが年々充実し、会員の親睦、さらに日本女医会の発展にもつながる事を願っております。

市民公開講座開催報告「俳句で脳をいきいきと ～たっぷり生きる人生の喜び～」

岩手支部　**斎藤恵子**

これまでの講座は、医療関係者を講師にお迎えして行って参りましたが、市民の皆様がより参加しやすい講演会にしようとの意図から、今回は少々視点を変えて昨今ブームとなっている「俳句づくり」に注目し、句作と脳の活性化、そしていきいきとした人生の過ごし方などについてのお話しをいただくため、人気俳人の黒田杏子先生を講師にお迎えいたしました。

仲秋の10月29日（水）19：00、盛岡市内のホテル会場には医療関係者21名を含む98名の方々がご参加くださいました。黒田先生はNHK BS「俳句王国」やNHK「ラジオ深夜便」などでおなじみ、もんぺスタイル、おかっぱヘアーの個性的行動的俳人です。

句作で世界中を旅し、人、土地、自然、歴史、風土などあらゆるものとの出会いから生きる喜びが得られると、味わいのある語り口で聴衆に語りかけ、感動的な講演会となりました。

黒田杏子先生 PROFILE

ＮＨＫＢＳ「俳句王国」、ＮＨＫ「ラジオ深夜便」などでおなじみ、もんぺスタイルの行動的人気俳人。世界中の手仕事の布を身にまとい、手書き、縦書きのこだわり派。大手広告会社ではキャリアウーマンとして句作にも打ち込んだ。山口青邨（盛岡出身）を生涯の師と仰ぐ。

留学記

夫婦一緒にドイツから英国を経てアメリカへ留学

――夫は感染症科、妻は産婦人科医で働く女性医師の生き方を追求――

栃木支部　**吉田穂波**

この夏より、日本の医療界ではあまりなじみのないPublic Healthの分野を学ぶためにHarvard School of Public Healthへ留学いたしました。娘を3人連れて、いまさら学生？と驚かれましたが、どうしてもアメリカで臨床統計や医療システム、女性医師の生き方について研究したかったのには理由があります。

これまでは産婦人科医を天職と思って12年間働いてきました。聖路加国際病院で研修を終え、名古屋大学で学位を取ってから、夫のドイツ留学に同行しましたが、臨床医として働かせてもらった病院で自分も出産したことで貴重な経験をいたしました。つわりや妊娠期間中のマイナートラブル、そして出産・育児を前に、どんなに自分がちっぽけで弱いものなのかを思い知らされ、また、それまで以上に周りへの感謝の気持ちと謙虚な心が強く根付いたことは、その後の診療スタイルに大きな影響を与えたと思います。

帰国後は、女医会でもご活躍中の対馬ルリ子先生が設立した女性医師による女性のための総合クリニック、ウィミンズ・ウェルネス銀座クリニックに就職。大学病院や大病院勤務から一転、民間の医療機関に勤務する中で、現在の日本医療の問題を肌で感じるようになりました。その中で、女性医師が増えて産休などで第一線を退いていくために産婦人科医が不足しているとの誤った評価を聞いて心ひそかに憤慨していました。どうして、正義感と使命感あふれる女性医師が産婦人科を選んではいけないのか？どうしたら女性医師が生きがいを持って生涯働き続けられるのか？子育てと仕事とを一生懸命こなす中で、何かと社会的に問題となる産婦人科医として、3人の子供を育てる女性医師として、日本の医療を良い方向に変えていけるような、現場からの発信をしたいと思うようになりました。そのためにまずきちんと学問的に医療システムを勉強する必要がある。それが留学を考えたきっかけです。

働きながら海外難関校を受験することは絶望的に難しく思えましたが、いつも支えてくれたのは「ドイツにはついて来てもらったから、今回は僕が君の希望に合わせるよ。」という夫の言葉です。幸い、夫も私のハーバード合格が決まってからボストンでポジションを探し、ハーバード大学医学部付属チャニング研究所のリサーチ・フェローの仕事を見つけました。妻が夫の留学について行くケースはよくあるでしょうが、その逆はあまり聞きません。夫はよく決断してくれたと心から感謝しています。いくつになっても、どんな場所にいても、勉強したいという気持ちがあれば道は開かれる、そのことをお伝えしたくて筆を執りました。こちらでの経験が、女医会のモットーである女性医師の研鑽、地位向上につながればと願ってやみません。

■支■部■だ■よ■り■

京都支部のつどい

京都支部　**石川知子**

しだれ桜でさくら色に染まり、夜桜で知られる丸山公園。そこにたたずむ明治のタバコ王の別邸。伊藤博文命名のルネッサンス様式の“長楽館”で、2008年3月2日、京都支部の会を行いました。小田会長、角田副会長をお迎えしての24名の参加で、非公開の“御成の間”で小田先生より「中央での取り組みについて」、角田先生より「たんの吸引」の講習会のビデオを分かりやすく説明して頂きました。

長い間、副支部長をして頂いた仁科周子先生に御礼を申し上げるとともに、新しく森本博子先生に副支部長をして頂くことになりました。

講演会では京都市立病院産婦人科部長 藤原洋一郎先生に「女性とヘルペス～総説から最新の治療まで～」と題して、実地診療に役立つ講演がありました。そのあと、1月に新装したてのモダンなレストランの前で記念撮影。

さらに、珊瑚柱に青連院の襖絵を描いた木村英輝先生の筆による淡いタッチの桃色の鳥が飛び立つ絵に囲まれたレストランで、朝採り立ての京野菜、プロシュートをシェフ自ら取り分けてくださる心づくしの料理や熊谷直実の末裔の方がせつなく歌うピアノの弾き語りに、しばし時のすぎゆくことを忘れてしまう宴となりました。会の終わりには、恒例の福引き。1等はホテルのスペシャルケーキ（おいしい！　とっても！！と好評でした）。2等、3等は素敵な香りのアメニティーグッズ。参加者全員には京桜煎餅をおみやげに、来春の再会を願って、終わりました。

うつくしき　春日拝みぬ　長楽寺

鈴鹿野風呂

私の大学
岐阜大学医学部

岐阜支部　山本眞由美

本学は、平成16年度の国立大学法人化とともに岐阜市中心部から郊外へ新築移転し、国立大学医学部としては最後の新築大学病院ならびに医学部研究教育棟となりました。震度7の地震にも耐えうる最新耐震設計、ヘリポートを擁した新病院は、地域医療の最後の砦としての自覚と責任に裏付けされたものです。吹き抜け大理石張りのエントランスホールは、床暖房が完備し待合ソファーの裏側には酸素・吸引設備も設置されており、大規模災害時の備えを兼ねています。35人以上の医師から構成される高次救命治療センター（精神科医もいる点は“ズームイン朝”でも報道されました）は、中部地区最大で、毎日ドクターヘリとドクターカーが活躍しています。緊急患者さんは、救命救急室から専用のエレベータで手術室・ICU/HCUへ搬送されるので、ばたばたした場面を一般の外来や病棟で目にすることはありません。夏山登山者の健康を守る岐阜大学医学部の無料穂高診療所は、教職員のボランティアで運営されてきた稀有な存在で今年５０周年を迎えましたが、ここからも重症患者さんが１５分で大学病院のヘリポートへ搬送されてくるそうです。医療情報部が新病院に開発導入した最新の電子カルテシステムは、単なるオーダーリングシステムの集積でなく、診療行為プロセスがすべて記録保存され分析利用可能である世界最先端の次世代型データソフトウェアーハウスで、国内外からの見学者が絶えません。受付・検査・診察・レセプトなどの診療行為がすべて実施者・正確な実施時間とともに記録されるので、患者職員導線分析などの業務分析により診療の質向上に役立っていることに視察者は感嘆するようです。院内に完備しているグラスファイバー回線のおかげで、600台以上の院内端末（高画像解析モニター付き）どこからでもMRI画像、手術ビデオ画像、患者モニター画面などすべての患者関連情報が見ることができる以上にいろいろなITの威力があります。たとえば、患者情報が診療科や職種の壁を越えて共有されるため専門家集団の能力を結集させるチームワークを支援しています。連絡や指示の統一は画面上ですべてなされ、完全なペーパーレス・フィルムレスが実現しており、緊張感を持ってわかりやすく入力されます。テンプレートやドラッグコピー機能により入力は極めて簡単で、インスリンの処方など自動で必要本数を計算してくれますから、医療行為の効率化・危機管理上も有用です。私は、全機種の自己血糖測定器に保存されたデータを電子カルテに取り込んで記録するシステムの開発に関りましたが、このように機能が発展し続けていることも魅力の一つです。

岐阜大学は、医学部移転により全学統合移転を成し遂げたのですが、多くの諸先輩方の「後輩のために」という信念に基づいたご努力の賜物であったことを実感しています。本学の前身は明治8年誕生の岐阜県医学校ですが、同19年に廃校となっています。昭和19年に開校された岐阜県立女子医学専門学校の先輩方は、廃校の歴史を繰り返すまいと、教官とともに文部省に泊り込み陳情を繰り返し、戦災による廃校寸前の危機を救ってくださったと聞いております。その後の岐阜県立医科大学の時代を経て、昭和36年に大学院、39年に医学部、昭和42年に附属病院が、地域の期待を一身に背負って、国立移管を達成しました。諸先輩は、図書館の蔵書不足を補うために開業医の先生方を訪問して専門書をかき集め、国立移管を目指したと聞いています。昭和45年に岐阜大学統合用地が決定となった後、文部省から平成8年に医学部・附属病院の移転許可を得、平成16年に移転統合が実現するまでの34年間には諸先輩の涙ぐましい数多くの努力があったことが語り継がれています。歴代の医学部長・病院長をはじめ統合整備に尽力なさった先輩方は、まさに21世紀の医療を考えて、文部省との折衝、用地買収など幾多の難問を乗り越えていらっしゃったわけです。50年後の母校の発展のみを考えたその信念と行動力に、後輩の私どもは深く感謝すると同時に、我々も50年後の母校の発展を考えなくてはならないバトンを渡されている責任を痛感しています。

ところで、私は学生時代、“国立大学医学部初の女性教授”であった微生物学教室の藪内教授の講義を受けることができました。平成13年度設置の医学教育開発研究センター（全国共同利用施設）は、“全国初の医学部チュートリアル教育”、模擬患者面接を実践してきました。また、昨年の医学部医学科の後期入試倍率は、“国立大学医学部史上最高”をマークし、話題を呼びました。平成19年度には医学部・工学部・岐阜市立薬科大学による“全国初の国公立大学連携”による連合創薬医療情報研究科が開設しました。平成22年度には、岐阜市立薬科大学校舎が岐阜大学キャンパス内医学部棟隣に完成、“全国初”の公立大学と国立大学の同棲が始まります。わが母校は、このように「全国初」という頑張りを、岐阜の地に貢献する

ことを一生懸命考えながらすすめてきました。私は同窓生の一人として、こんな母校を誇らしく愛しています。また、私は大学に身を置く一人として、この母校の発展のために微力でも貢献しなくてはならないという責任を、この原稿を書きながら、再度自覚している次第です。

新刊書紹介『糖尿病と妊娠の医学 —糖尿病妊婦治療の歴史と展望—』

大森安恵 著　文光堂 刊

著者自身が新刊書を紹介すると、自画自賛になるので良くないのではないかと躊躇されたが、年末の忙しい時期に専門外の新刊を読んで紹介する余暇を持つ方はいないと思われたので，お言葉に甘えて書かせて頂いた。

洋の東西を問わず、また専門医用、一般向けを問わず糖尿病に関する著書は数限りなくあるが、糖尿病と妊娠をテーマにした書籍は我が国には数冊しか出版されていない。しかも単独で書かれた専門書は本書が初めてである。

昭和30年代、我が国では妊娠可能な年代の糖尿病者は非常に少なく、危険だから妊娠はすべきでないという不文律があった。

当時私は死産を経験し、子供を失った悲しみがどれほど苦悩に満ちたものかを味わっていた。その時、立て続けに悲嘆にくれた二人の患者さんを受け持った。妊娠中、糖尿病の診断がなされず、子宮内胎児死亡後、紹介されてきた糖尿病の患者さん達であった。子供喪失の悲しみの共感がきっかけとなって、我が国に糖尿病と妊娠の分野を確立する機会が与えられたのだ。たくさんの人々のご支援を得てそれに邁進してきた。

したがって、本書は50年の研鑽の積み重ねを土台に、2008年11月漸く出版の運びになったものである。どの分野に於いても、事実は歴史という時代の流れによって歪曲されることが多い。「糖尿病と妊娠」の分野を医療者に正しく認識して頂き、糖尿病を持つ人々の幸せに資すること、歴史を正しく記述して後世に残し、その発展に資することを目的として書き留めたものである。上村松園が描いた健やかな母子像を表紙に使っていただいたので、医学書のイメージを超えた美しい本となっている。

東京女子医科大学糖尿病センターの岩本安彦教授は次のような推薦の言葉を書いて下さった。

「本書には、先生が40年間奉職された母校の教室での臨床データが随所に散りばめられているのはもちろんですが，世界や日本に於ける糖尿病と妊娠に関する臨床と研究の歴史がまとめられている点に於いても、大変貴重なものである事は間違いありません。

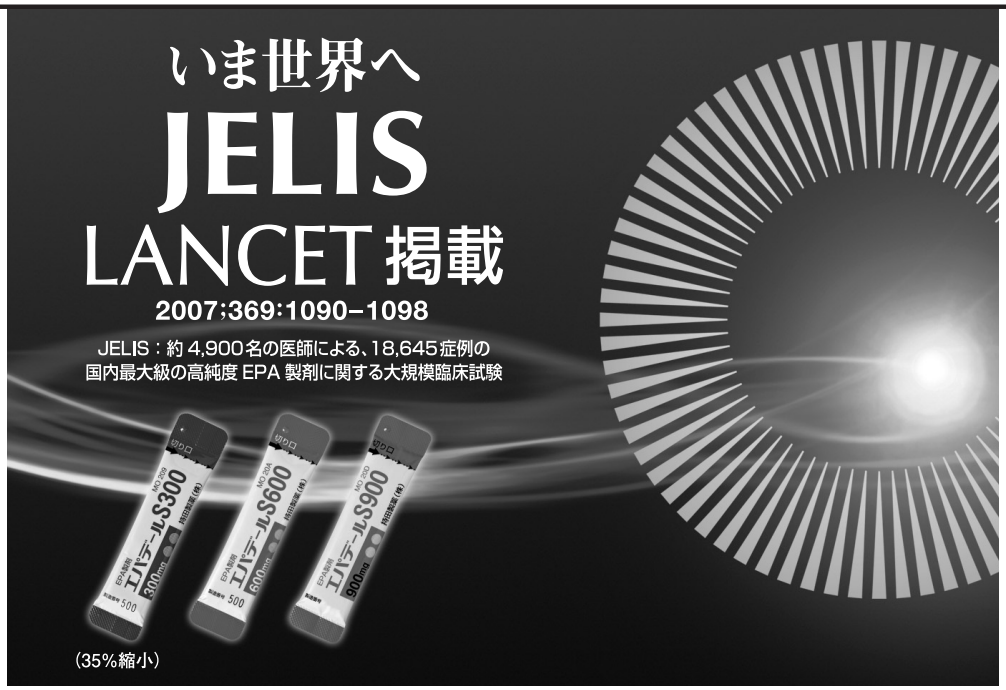
糖尿病と妊娠の分野に関心をもつすべての人々にとって待望の書であり、必読の書であります」

と。私は若い女医さんに是非読んで頂き、患者さんとの出会いを大切にしてライフワークを掴んで欲しいと思っている。

（大森安恵）

会員動静（2008年12月15日現在）

入　会	旭　百合子	（昭57年卒）	栃　木
	北　るか	（昭63年卒）	栃　木
	星野　美絵	（平　1年卒）	葛　飾
	大野　京子	（昭62年卒）	品　川
	高山　幹子	（昭39年卒）	新　宿
	木村　鈴代	（昭42年卒）	愛　知
	小出　詠子	（昭59年卒）	愛　知
	杉山　正子	（昭52年卒）	愛　知
	中川ひふみ	（昭43年卒）	愛　知
	丹羽　咲江	（平3年卒）	愛　知
	野村　洋子	（昭29年卒）	愛　知
入　会	真野　清子	（昭46年卒）	愛　知
	村上　京子	（昭61年卒）	愛　知
	市田　蕗子	（昭52年卒）	富　山
退　会	15名		
物　故	加藤　千影	（平9年卒）	北海道
	久田　タカ	（昭23年卒）	千　葉
	神山　シヅ	（昭24年卒）	練　馬
	山田　直枝	（昭16年卒）	山　梨
	中村富美子	（昭17年卒）	富　山
	柊山　緑	（昭23年卒）	宮　崎



EPA製剤
エパデールS 300 600 900
指定医薬品
日局 イコサペント酸エチル・軟カプセル剤 〈薬価基準収載〉

EPA製剤
エパデール カプセル300
指定医薬品
日局 イコサペント酸エチル・軟カプセル剤 〈薬価基準収載〉

※副作用発現頻度、主な副作用については「使用上の注意」をご参照下さい。

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】
出血している患者（血友病、毛細血管脆弱症、消化管潰瘍、尿路出血、喀血、硝子体出血等）［止血が困難となるおそれがある。］

【効能・効果】【用法・用量】

エパデールS300/S600/S900

効能・効果	用法・用量
閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍、疼痛及び冷感の改善	イコサペント酸エチルとして、通常、成人1回600mgを1日3回、毎食直後に経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
高脂血症	イコサペント酸エチルとして、通常、成人1回600mgを1日3回、毎食直後に経口投与する。ただし、トリグリセリドの異常を呈する場合には、その程度により、1回900mg、1日3回まで増量できる。

エパデールカプセル300

効能・効果	用法・用量
閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍、疼痛及び冷感の改善	イコサペント酸エチルとして、通常、成人1回600mg（2カプセル）を1日3回、毎食直後に経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
高脂血症	イコサペント酸エチルとして、通常、成人1回600mg（2カプセル）を1日3回、毎食直後に経口投与する。ただし、トリグリセリドの異常を呈する場合には、その程度により、1回900mg（3カプセル）、1日3回まで増量できる。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）
(1) 月経期間中の患者 (2) 出血傾向のある患者 (3) 手術を予定している患者［(1)～(3) 出血を助長するおそれがある。］ (4) 抗凝血剤あるいは血小板凝集を抑制する薬剤を投与中の患者（「相互作用」の項参照）

2. 重要な基本的注意
(1) 本剤を閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍、疼痛及び冷感の改善に用いる場合、治療にあたっては経過を十分に観察し、本剤で効果がみられない場合には、投与を中止し、他の療法に切り替えること。また、本剤投与中は定期的に血液検査を行うことが望ましい。
(2) 本剤を高脂血症に用いる場合には、次の点に十分留意すること。
1) 適用の前に十分な検査を実施し、高脂血症であることを確認した上で本剤の適用を考慮すること。 2) あらかじめ高脂血症治療の基本である食事療法を行い、更に運動療法や高血圧・喫煙等の虚血性心疾患のリスクファクターの軽減等も十分に考慮すること。 3) 投与中は血中脂質値を定期的に検査し、治療に対する反応が認められない場合には投与を中止すること。

3. 相互作用
併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗凝血剤 ワルファリン　等 血小板凝集を抑制する薬剤 アスピリン インドメタシン チクロピジン塩酸塩 シロスタゾール　等	出血傾向をきたすおそれがある。	イコサペント酸エチルは抗血小板作用を有するので、抗凝血剤、血小板凝集を抑制する薬剤との併用により相加的に出血傾向が増大すると考えられる。

4. 副作用
総症例14,605例中、647例（4.4%）に副作用が認められている。（エパデールカプセル300及びエパデールS300・600の再審査（高脂血症）申請時）
副作用
以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
過敏症注1)	発疹、瘙痒感等		
出血傾向注2)		皮下出血、血尿、歯肉出血、眼底出血、鼻出血、消化管出血等	
血　液	貧血等		
消化器	悪心、腹部不快感、下痢、腹痛、胸やけ	嘔吐、食欲不振、便秘、口内炎、口渇、腹部膨満感等	
肝　臓注2)	AST(GOT)・ALT(GPT)・Al-P・γ-GTP・LDHの上昇等の肝機能障害		黄疸
腎　臓		BUN・クレアチニンの上昇	
呼吸器注2)		咳嗽	呼吸困難
その他	CK（CPK）の上昇	頭痛・頭重感、めまい、ふらつき、眠気、不眠、顔面潮紅、ほてり、発熱、動悸、浮腫、しびれ、関節痛、頻尿、尿酸上昇、全身倦怠感	女性化乳房

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
注2) 観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

【包　装】
エパデールS300/S600/S900 300mg：84包、420包 600mg：84包、420包 900mg：84包、420包
エパデールカプセル300 PTP：100カプセル、500カプセル、1,000カプセル、1,050カプセル

※詳細は添付文書をご参照下さい。

製造販売元
〈資料請求先〉
持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
電話(03)5229-3906(学術)〒160-8515
MOCHIDA

2007年5月作成（N12/15）

連載 第一回

第 53 回　日本女医会総会 講演会

「現代の忘れもの」

195号でご紹介させていただいた渡部和子先生のご講演の全文を連載として紹介させていただきたいと思います。

学校法人ノートルダム
清心学園理事長
Sr.渡辺和子

「壁」であり続けること

かつてはミッションスクールといえば、そこにシスターや神父様のお姿がありました。今はシスターの数も減りまして、ノートルダム清心女子大学では、シスターは学長1名と非常勤の私だけです。大学生が2200名おりますが、キリスト信者は20名くらいで、残りの2180名はノンクリスチャンです。何のために本学へ入学してくるかといいますと、昔、「あそこは、ミッションスクールだから……。」と言っていた時代は過ぎまして、一つは偏差値、もう一つは、あそこを出たらどういう就職ができるか、によって入ってくる時代になっております。シスター達がお作りになった大学も、現在はシスター達がいなくなり、非常勤の私は、この学校はシスター達がお作りになったんですよということを目に見える形でみせている訳です。

81歳のこの年になっても授業を持っております。私の授業では、無断で欠席すると点をある程度引きますが、欠席届を出せば2回までは点を引かないという決まりで、学生達はせっせと欠席届を出してくれます。中にはお祖父様を2回も殺した者もおります。「この間もだったじゃない？」と申しますと「あれは母方で、今

度は父方です」と……（笑）。

10年前のことになりますが、ある日、私がパッと欠席届を見ました中に『○月○日、（私の講義の）人格論を欠席しました。』その理由に『可愛がっていた猫が死んだので悲しくて休みました。』と書いた学生がおりました。私はそれを受け取りまして「あなた、正直だからほめてあげる。」と申しましたところ、最近その理由の欠席届が増えました（笑）。私は、幼小中高の教職課程、司書教諭、栄養教諭といった教職課程も教えております。私の講義は、倫理の中の人格論（一人間は一人格であるというpersonality development。如何にして一人ひとりの人格性が作られていくか、という講義）なのですが、その講義の中で、実は私は、このような欠席届を受け取ったという話をし『私の授業は、猫が死んだからという理由で休んでもいい。私の授業は、猫の死にも劣る価値しかない、猫の死の方が優先する授業なのかもしれないと思う。でも、あなたがたが教師になった時に、猫が死んだからといって、生徒を放っておいて休みますというのは、私はゆるせないと思う。』と申しましたら、それこそブーイングが参りまして「シスター、猫も家族の一員です。」と言うので、「ああそうですか、では今度から、猫が死んだら、忌引き届けを出してください。」と言っておきましたけれど（笑）。こういう身近な例を今、申し上げましたが、近頃、世の中が本当に変わってきております。私は、40年ほどこの大学で教えておりますが、かつて教えていた18歳～22歳の学生達と比べて、ものの考え方、価値観も随分変わってきております。ミッションスクールだから、そういう学生達にある意味で、いわゆる世間でまかり通っているものと異なる価値観を少なくとも学生に提示したい。それを自分のものにするかしないかは、本人の自由です。私は、それは、自由だと思っております。でも少なくとも、世の中のみんなが流れて行く方向、それにちょっと逆らう方向が世の中にはあるんだということを……提示したい。ある方が、近頃は善悪よりも損得が優先権を持っているとおっしゃいましたけれども、本当にそう思わざるをえない事がたくさんございます。私は学生達に「もちろん損得も大事、しかし損得と善悪が一緒にある時に何を選ぶか、考えながら選びなさい。あなたがたが何を選ぶのかは自由。でもミッションスクールに縁があって、4年間学ぶということは、ちょっとそこで考えてほしい、そして、悩んでほしい、悩んだ結果で損得を選ぶのなら、それはあなたがたの自由だけど……。」という様に、一応ぶつかる壁を学生に示しております。今の学生達は、本当に壁なしに来ております。『思う通りに、好きなことだけして、嫌なことはしない。』私は、その学生達の前に立ちはだかる教師で今までも参りましたし、これからもそうであり続けたいと思います。その壁は、阻止するためでなくて、そこでぶつかって考えるため、そして悩むための壁なのです。

【次号に続く】

渡辺和子 先生（シスター渡辺） Profile

昭和２年旭川生まれ。父上は渡辺錠太郎陸軍教育総監（陸軍大将）。昭和11年（９歳）、二・二六事件により、父上が銃弾に倒れる姿を目撃するという衝撃的な体験をされる。その後、雙葉高等女学校、聖心女子大学をご卒業、昭和29年上智大学大学院を修了。昭和31年（29歳）ナミュール・ノートルダム修道女会に入会。同会よりアメリカに派遣されボストン・カレッジ大学院にて哲学博士号を取得後、帰国。昭和38年、36歳という異例の若さでノートルダム清心女子大学学長にご就任（平成2年まで）。昭和49年岡山県文化賞受賞。平成２年ノートルダム清心女子大学名誉学長、学校法人ノートルダム清心学園理事長。平成４年～平成13年　日本カトリック学校連合会理事長。

ご活躍の陰でご苦労も多く、50歳の時にはうつ病の経験も。しかし病を乗り越え、学生たちを常に温かく見守り、教育者として、シスターとして多方面で功績を残していらっしゃいます。

著作『心に愛がなければ』『信じる愛、持っていますか』『人をそだてる』（PHP文庫）など多数。

寄付者一覧（敬称略）

氏　名	支部名
矢口　有乃	東女医学内支部
細川美智子	愛知

ご寄付の御礼

平素より日本女医会にお力添え下さいましてありがとうございます。

第53回定時総会の折、吉岡弥生賞の原資不足を報告申し上げご寄付をお願いいたしましたところ、平成20年11月末現在85名、6,795,000円の浄財を賜ることができました。

内訳は本部口1,020,000円、吉岡弥生賞890,000円、指定なし4,885,000円でした。理事会で検討の結果、指定なしの内3,000,000円を吉岡弥生賞へ振り替えることになりましたので、ここにご報告申し上げます。

諸先生の温かいお心に感謝申し上げ、吉岡弥生賞基金としてまた日本女医会の事業に大切に使わせていただきます。真にありがとうございました。

（会計担当副会長　山崎トヨ）

(((理事会議事録)))

日　時：平成20年9月20日（土）午後3時
場　所：日本女医会会議室
出席者：津田、松井、山崎、秋葉、安部、荒木、内潟、小関、古賀、川村、澤口、高原、田中、塚田、対馬、濱田、藤川、宮崎、宮本、矢口、山田、山本、吉馴、中井、森川　（以上25名）
欠席者：小田、澁谷（以上2名）

7月理事会議事録を承認

【報告事項】

1. 庶務報告　（古賀理事）
2. 会計報告7～8月分　（高原理事）承認
3. 事業部報告　（田中理事）
理事の名刺完成の報告
カラー希望の場合は個人負担（2000円）となるが事務局へ申し出る。
今後、「理事」の英語表記を“board member”に改める。
4. 渉外部報告　（松井副会長）
① 8月22日　国連NGO国内婦人委員会役員会に出席
「日本・アラブ女性交流」について、会長ら10月31日～11月7日にアラブへ訪問。来年1月28日～2月4日に日本へ訪問される。
② 9月18日　国連NGO国内婦人委員会「第63回国連総会政府代表団参加の黒崎伸子氏歓送会」に出席の報告
5. 学術部報告　（内潟理事）
学術部代表を荒木理事より交代した。　（承認）
来年2月1日「日本・アラブ女性交流」のフォーラムを学術部講演会も兼ねての開催も考慮中
6. 広報部報告　（宮崎理事）
8月6日に広報会誌195号割付会議を開催。
7. 委員会報告
① 子育て委員会　（対馬理事）
8月24日子育て委員会を開催。4地区（札幌、盛岡、名古屋、岡山）の連絡協議会の活動が開始された。厚生労働省に「活動協力」の趣意書を作成し送付したい。
② 長寿社会福祉委員会　（松井副会長）
講習用DVDを製作中。11月1日に名古屋、2月7日に東京で講習会を開催。
③ 女性医師支援委員会　（荒木理事）
明日（21日）開催のセミナーの説明。セミナーで「役員から一言」をまとめて配布したいので、協力を要請
8. NC報告　（内潟理事）
10月18～19日に開催される国際女医会西太平洋地域会議へ会員12名、同伴者1名の計13名が出席。
9. その他の報告
・寄付のお願い　（山崎副会長）
現在まで69名から400万円越す寄付があった。今後も受け付ける。
総会での寄付のお願いの仕方を今後の審議事項とする。
・子育て委員会、小児救急今年度の活動　（山崎副会長）
昨年度「子育て支援委員会」で作成のマニュアル本がマスコミにも載り、大いに利用されている。今後も販売を要請。
・日本・アラブ女性交流について　（津田副会長）
10月30日～11月6日にアラブ三国の訪問をする旨の報告
・第4回日本男女共同参画シンポジウム報告　（津田副会長）
7月19日に福岡で開催された日本医師会・シンポジウムについての報告
・2009年定時総会について　（吉馴理事）
予定行事に沿って説明があった。宝塚の切符を50枚確保している。10月末発行の日本女医会誌にお知らせを掲載。

審議事項

1. ブロック別懇談会について　（古賀理事）
依頼を出した地区で開催可能と返事のあった奈良の岡本先生には開催希望日を3月1日として返信をする。福島の本多先生からは来年度に開催可能のお返事を頂いた。 各地区で活躍している先生を紹介してほしいと要請。
2. 理事定数について　（小関理事）
日本女医会理事の定数減少を念頭に日本医師会の理事数を調査した。一般的に会員数と理事数は比例しているとは限らないし、年毎会務が多くなっており、会の活性化のためにも容易に減少すべきではないとの多数の意見があった。また、会員増強による収入増を図った方が良いとの意見もあり、継続審議事項とする。
3. 日本女医会費について（宮本理事）
資料4に基づき説明があった。正会員の会費と再入会員の会費は現行通りの12,000円。新卒者、学生、研修医等の会費については継続審議とする。今後広報誌発送等による経費削減の方法も視野に入れ、検討する
4. 職員の定年について（山崎副会長）
現行の「就業規則」は平成4年に作成されたもので、現在に合った「就業規則」の作成を会計士・長嶋先生に依頼中。
5. その他
・市民公開講座の申請
岩手支部から10月29日開催の市民公開講座に10万円の補助を決定。
・他団体からの依頼
東京女子医科大学女性医学研究者支援室、イージェーネットからの後援依頼を承認
・子育て支援委員会の厚生労働省へ提出する「協力依頼文」は公用文の形式に合わせて校正する。
・日本女医会から「女子医師支援」の出版物を出すことも検討してはどうか、との意見も出された。
・以前から検討されていた大学祭に展示するための「女医会紹介パネル」はまず（案）を作成してから理事会で検討する。

以　上

日　時：平成 20年10 月 25 日(土)
午後 3 時
場　所：日本女医会会議室
出席者：小田、津田、松井、山崎、秋葉、安部、荒木、内潟、小関、古賀、川村、澤口、澁谷、高原、田中、藤川、宮本、矢口、山田、山本、中井、森川（以上22名）
欠席者：塚田、対馬、濱田、宮﨑、吉馴　（以上 5 名）

9 月理事会議事録を承認

【会長挨拶】

1. 国際女医会西太平洋地域会議が無事終了。日本女医会も社会的活動をもっとすべきと感じた。2011年に国際女医会西太平洋地域会議の日本での開催を引き受けた。
2. 日本・アラブ女性交流事業が具体的に動き始めた。10 月 31 日から 11 月 7 日までアラブ三国を訪問し、アラブから来年 1 月 28 日から 2 月 4 日まで来日される。
   訪問団来日中には皆様のご協力をお願いしたい。
3. 人は皆違う、平等ではなくとも公正な社会を希望したい。

故野澤良美先生の妹、小川昭子先生（都下東支部）が理事会に来訪、寄付金 100 万円と吉岡弥生賞受賞記念誌が寄贈された。

【報告事項】

1. 庶務報告　（宮本理事）
松井副会長より内閣府公益法人認定等委員会「新しい公益法人制度に関する相談」へ行った報告。申請書類作成等を長嶋会計士に依頼する。
2. 会計報告 9 月分（高原理事）承認
3. 事業部報告
「いきいき」の原稿を続けて執筆中
（藤川理事）
4. 渉外部報告
① 10月2日 中国女医会との懇親会に川村理事、澤口理事と出席
（松井副会長）
② 10月15日 国際婦人年連絡会「環境委員会10月例会」に出席
（中井監事）
5. 学術部報告　（内潟理事）
来年2月1日に「日本・アラブ女性交流」のフォーラムも兼ねて開催する学術部講演会のチラシを作成、会誌と共に会員に発送。多数の理事の参加を要請。
6. 広報部報告　（秋葉理事）
10月15日に広報会誌196号割付会議を開催し、本日会誌を発行できた。
1月末発行の次号は国際女医会西太平洋地域会議の記事を中心とする。
7. 委員会報告
① 子育て委員会　（澁谷理事）
連絡協議会を11月22日に札幌で開催
② 長寿社会福祉委員会
（松井副会長）
11月1日（土曜日）13時より名古屋都市センターで講習会を開催
③ 女性医師支援委員会
（荒木理事）
9月22日開催のセミナーに対しての協力に謝辞。集客の難しさを痛感。今後も効果的に持続して行きたい。次回理事会終了後に委員会を開催予定。
8. NC 報告　（内潟理事）
10月17日～19日メルボルンで開催された国際女医会西太平洋地域会議の報告。
2011年日本での開催を引き受けた。開催地、開催時期、テーマ、学生の参加等についても今後検討していきたい。
男性からもサポートしてもらえるように「賛助会員」としての形があって良いのではないかとの意見が出され、今後の審議事項とする。
また、藤川理事より医学生への賞授与があったが日本でも参考に、との提案があった。
小田会長の命で国際女医会の方々に感謝のメールを出し、それに対する返事も受け取ったとの報告。
9. その他の報告
・軽井沢セミナー　（小関理事）
今回は前田佳子会員（神奈川支部）のミニレクチャーを行う。
・職員定年について　（山崎副会長）
原案ができたので、庶務でまとめてから提案したい。
・澤口理事：東京女子医科大学を来年卒業予定の学生さんに日本女医会の紹介をしたとの報告。
・山崎副会長：元日本女医会事務員だったという女性より金融商品勧誘の電話があったので、皆様も要注意。
・宮本理事：第 54 回大阪総会のご案内を会誌に同封したので、早めの申し込みを要請。

【審議事項】

1. 学術部からの提案（内潟理事）
・助成金授与者、研究題名をデータベース化して HP に掲載
・「いきいき」女医会会員の記事をデータベース化し女医会 HP に掲載
・女性医師支援活動の HP を作成し、全国で行われている会の一覧を作成
以上三点の提案があった。広報部、事業部と協力して、予算案もとり、「いきいき」は本にして販売することも視野に継続審議とする。
2. 日本・アラブ女性交流について
（内潟理事）
「資料2」に基づきに日本の受け入れの日程について説明があった。
渉外部を中心に可能な限り役員全員の協力を要請。
3. 忘年会または新年会の開催について　（古賀理事）
12月14日（日曜日）理事会終了後の忘年会、あるいは1月24日（土曜日）終了後の新年会で決を取り、12/14の忘年会、京王プラザホテルで決定、詳細は庶務に一任。
4. 定款改正について　（松井副会長）
厚生労働省が作成した「改正案」を基に「新しい公益法人制度」に則した定款の作成を長嶋会計士に相談しながら進めていくことに決定。
5. 各部のあり方について
（山崎副会長）
理事会開始15分前に各部部会開催の提案があり、全員賛成で可決
6. 子育て支援委員会の名刺について

（小田会長）

・日本女医会子育て委員より、名刺があると活動し易いとの希望があり検討する。

・日本女医会の宣伝にも繋がるので事業内容を明記した両面印刷で承認される。

7. NC 補佐について　（小田会長）

内潟理事も多忙であり又NCの仕事も多用となっているので、安部理事、矢口理事が補佐となることが承認された。

8. その他

・イージェイネットから市民公開講座へ申請があったが、「後援」では助成金を出さない旨決定されていたし、あくまで支部主催の講演会に対する助成金であるので今回は却下する。

・小児救急・子育て委員から

（山崎副会長）

小児救急の冊子を定価より安く販売したい旨打診があったが、特定の団体のみ適用すると不公平になるので、常に定価販売とする。

・長寿社会福祉委員会への協力依頼は必ず理事会を通してもらう。

【継続審議】

・寄付のお願いの仕方

今まで頂いた寄付金の用途を明確にし、次回総会でもお願いするか決める。

継続審議とする。高額の方には感謝状を差し上げることも検討する。

・理事の定数

現在の人数（21 ～ 25名）通りで決定。

・会費について

前回理事会で作成した資料を基に次回理事会で再検討する。

以　上

日　時：平成 20年11月15 日（土）午後 3 時
場　所：日本女医会会議室
出席者：小田、津田、松井、山崎、荒木、内潟、小関、古賀、川村、澁谷、高原、田中、対馬、濱田、藤川、宮﨑、宮本、矢口、山田、山本、吉馴（以上 21 名）
欠席者：秋葉、安部、澤口、塚田、中井、森川（以上 6 名）

橋本前会長が「瑞宝重光章」受章のお礼と報告に来訪された。

10 月理事会議事録を承認

【会長挨拶】

1. 日本・アラブ女性交流で 10 月 31 日～11 月 7 日までヨルダン、シリア、エジプトを訪問した。皆様から頂いたお土産は有効に使った。平敷国際女医会会長、津田副会長、私がそれぞれ講演を行い、多くの有意義な意見交換がされた。来年の受け入れ時には皆様のご協力をお願いしたい。そして若い医師、医学生の積極的参加を希望する。
2. 子宮頸がんに対する HPV ワクチンに対する認知が高まりつつあり、日本女医会がリーダーシップを取りたい事業である。
3. 今月の理事会で「学生会員等の会費」についての結論を出したい。

【報告事項】

1. 庶務報告　（古賀理事）

津田副会長から改めて中東三国へ訪問の報告が、内潟理事からは外務省表敬訪問の報告があった。

2. 会計報告 10 月分　（濱田理事）

承認

3. 事業部報告　先月理事会後に部会開催　（田中理事）

藤川理事から大学別会員の実態を調査したい旨、希望があった。

4. 渉外部報告

11月5日国連NGO国内婦人委員会開催「役員会」に出席の報告（矢口理事）

12月19日開催の「第63回国連総会報告会」に出席要請。

5. 学術部報告　（内潟理事）

来年2月1日に「日本・アラブ女性交流」のフォーラムも兼ねて開催する学術部講演会に多数の参加を要請。

6. 広報部報告（対馬理事）

1月末発行の日本女医会誌197号の原稿を募集中。

7. 委員会報告

① 子育て委員会（対馬理事）

11月23日に連絡協議会を札幌で開催。札幌の関係各所から23名参加の予定。

② 長寿社会福祉委員会（松井副会長）

11月1日「在宅高齢者の栄養管理講習会」を名古屋で開催した。12月4日に委員会を開催、2月7日はルークホールで講習会開催。また来年度の講習会開催地の協力の要請があった。

③ 女性医師支援委員会（荒木理事）

本日の理事会終了後に委員会を開催。

8. NC 報告　（内潟理事）

MWIA事務局から連絡事項（子宮頸がん週間と世界糖尿病デー）を一斉メールで配信した。

9. その他の報告

・軽井沢セミナー　（小関理事）

11月8 ～ 9日に開催した「軽井沢セミナー」に17名の参加があり、また前田会員（神奈川支部）によるミニ講演会もあり、成功裡に終了した旨の報告。来年からは多数の参加があるよう、会員全員をお誘いする方向で企画する。

・ブロック別懇談会（古賀理事）

奈良在住の岡本先生のご尽力で3月1日に奈良県医師会男女共同参画推進委員会と一緒に開催する。詳細は庶務に一任する。

12月理事会の日に開催の忘年会は洋食で会費13,000円とする。

【審議事項】

1. 日本・アラブ女性交流について

（内潟理事）

・「資料 4」と「予算案」に基づき進捗状況の説明があった。役員の協力を要請。

・フォーラムの講師の謝金については外部の一般的な金額も参考に再検討する。

2. 各賞募集（山崎副会長）

・各賞の募集締切は 12/25 日。該当者の推薦を依頼。

3. 賛助会員について（内潟理事）

・「資料 5」に基づき説明があり、日本女医会を社会的に認知してもらう為にも「賛助会員」制度を設けることは意義あり、全員賛成で承認。それに伴い「定款 7 条『賛助会員』総会で承認」を「理事会で承認」に変更する。

4. ホームページの件　（澁谷理事）

・「資料 6」に基づき、中間報告。

①支部紹介あるいは支部HPとのリンク　②「いきいき」の原稿の掲載　③検索engine型検索機能の追加　④一般向けに現在休止中の「女性医師によるからだとこころの相談室」の再開　⑤グーグル広告料による運用　⑥キーワードの追加 ⑦会誌を送付しないweb会員の募集等、継続審議とする。

・次回理事会にユートさんより説明を受ける。

5. 会費の件　（宮本理事）

今後、日本女医会会費を次のように決定。正会員：12,000円、学生・初期研修医：無料、再入会：12,000円、web会員：10,000円とする。又、自然退会者が再入会の時、退会時未納金は免除とする。

6. 寄付の件（継続）　（津田副会長）

・寄付は 10 月末現在、84 名から 6,785,000 円頂いている。内訳は、本部口へ 1,020,000 円、吉岡賞へ 880,000 円、指定なしで 4,885,000 円。

・吉岡賞は年間約 70 万支出するので、指定なしのうち 200 万を吉岡賞へ入れる。今回の寄付は目的金額に達したので、寄付の募集を終了。日本女医会誌と大阪の総会で報告とお礼を述べる。又、改めて西太平洋地域会議に向けての寄付をお願いする。

7. その他

・藤川理事より、来年度から日本女医会より発信するすべての文書に「文書番号」をつけたほうが良いのではとの意見が出され、承認される。

・橋本先生、叙勲のお祝いの会について

来年度の総会（平成21年5月17日）で披露し、祝賀会は前日の懇親会にあわせる。

・後援依頼（資料 8）　（対馬理事）

性と健康を考える女性専門家の会から依頼のあった、シンポジウム「女性と健康とＨＰＶ（ヒトパピローマウイルス）」の後援を承認

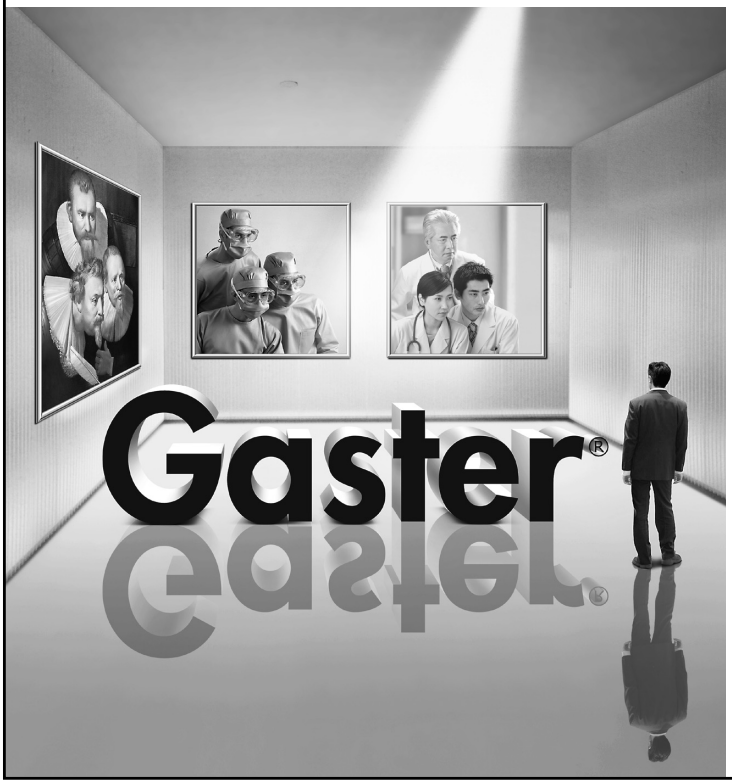
・日本女医会としてもＨＰＶワクチンの認可と子宮頸がん予防のための事業・啓発活動を開始する。まず HP に「宣言」を掲げ、来年の「子宮頚がん週間」及び「世界糖尿病ディー」に向けて行動をおこすことに決定。

・情報提供で急を要する場合は、広報部と会長、副会長の判断で HP、会誌への掲載することが認められた。

・職員賞与　2.6 ヶ月とする。

以　上

astellas



H2受容体拮抗剤（ファモチジン製剤）薬価基準収載

ガスター® 錠・D錠 散・注射液

指定医薬品　Gaster®

●錠10mg・錠20mg／日本薬局方　ファモチジン錠
●D錠10mg・D錠20mg／ファモチジン口腔内崩壊錠
●散2%・散10%／日本薬局方　ファモチジン散

指定医薬品、処方せん医薬品（注意-医師等の処方せんにより使用すること）

●注射液10mg・注射液20mg／ファモチジン注射液

■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売　アステラス製薬株式会社
東京都板橋区蓮根3-17-1
［資料請求先］本社／東京都中央区日本橋本町2-3-11

08/11作成 120×165mm

日本女医会よりご案内

日本女医会
吉岡弥生賞 推せんについて

平成 21 年「日本女医会吉岡弥生賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。

締め切り期日は、平成 21 年 12 月 25 日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

1. 自筆履歴書
2. 業績
イ）医学に貢献した現会員。
ロ）社会に貢献した現会員。
3. 推せん理由

日本女医会
荻野吟子賞 推せんについて

平成 21 年「日本女医会荻野吟子賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。会員・非会員を問いません。おもに地域医療に貢献された方を対象としています。

締め切り期日は、平成 21 年 12 月 25 日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

地域医療奉仕活動 に対する助成のご案内

平成 21 年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申しあげます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締め切りは、平成 21 年 12 月 25 日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

（社）日本女医会　事業部

第29回 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

1. 助成の趣旨

医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

2. 助成金額

1 件 30 ～ 50 万円（3 件）

3. 申込手続

⑴応募資格

入会継続 3 年以上経過した日本女医会会員で個人、またはグループ（ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること）

⑵助成期間

1 年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3 年以上の間隔を置く。

⑶応募方法

本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。

1 通を提出（用紙は事務局へ請求のこと）

⑷締切期日

平成 21 年 12 月 25 日必着

⑸選考および発表方法

選考委員会において選考の上、平成 22 年 2 月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

⑹助成金の贈呈

平成 22 年 5 月開催の日本女医会総会の席上。

⑺受賞者の本会に対する義務

平成 23 年 3 月末日までに研究経過報告（A4 原稿用紙 2 枚程度）と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

⑻送り先

社団法人 日本女医会
〒 150-0002
東京都渋谷区渋谷 2-8-7
☎ 03-3498-0571

編集後記

あけましておめでとうございます。世界中が大不況の影に脅えるような 2009 年の幕開けですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

2008 年は、日本女医会も新体制になり、女性医師支援や在宅高齢者の栄養管理、10 代の性の健康支援ネットワーク作り（ゆいネット）など、さまざまな新しい事業にも取り組んだ年でした。また、会長・理事会も、女医会誌・HP と連動し、「子宮頸がん検診と HPV ワクチンの啓発・普及活動宣言」を行うなど、当会は、社会にむけて大きく発信しようとしています。

これは、世界の女医会活動とも呼応し連動した活動です。会長の巻頭言にもあるように、女性医師は、いまやマイノリティではありません。どの国においても、男性主導の医学会・医療界に、ただ参加している存在ではありません。特に女性や子ども、高齢者など社会的弱者の健康に対して、責任をもって発言しているのです。

MWIA-WPR（国際女医会西太平洋地域会議）に参加された先生方が、子宮頸がん検診普及や HPV ワクチンの認可に、強い意欲を持たれて帰国されたのも、HPV ワクチン認可や公費負担の体制整備が遅れ、今やとり残されているのは日本と北朝鮮・中国だけというわが国の現状に危機感を持たれたからと思われます。

また、国内外の女性団体のとりまとめ役として活躍を続けておられる前会長の橋本葉子先生が叙勲されたのも、女性が連携して社会に発信していくことの重要性が認識されてきているからと実感いたします。

今年は、1 ～ 2 月の、日本ーアラブ女性交流の受け入れから始まって、益々日本女医会の活動も活発さを増すと思われます。会員諸氏も、どうぞ積極的にご参加いただけますよう、また女医会誌とホームページへの寄稿もお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願いもうしあげます。

（対馬ルリ子）

日本女医会誌

復刊第197号　2009年1月25日発行
編集人　対馬ルリ子
発行人　小田泰子
制作　あづま堂印刷㈱

発行所　社団法人 日本女医会
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7青山宮野ビル
TEL 03-3498-0571　FAX 03-3498-8769
http://www.jmwa.or.jp
e-mail : office@jmwa.or.jp